



# 学校だより SEIDO

令和8年3月17日18号

芦屋市立精道中学校

～ 一人を大事に 一秒を大事に ～

78回生の門出を見送りました。

13日は、心のコもった全校合唱が響き感動の予行練習でした。16日の卒業式も78回生らしいあたたかく、とても良い式となりました。

たくさんの準備をしてくれた1,2年生のみなさんありがとうございました。次はみなさんが精道中の伝統を受け継ぎ、進化させていく番です。

よろしくお願いいたします。



今、この体育館に集まった私たちは、同じ校舎で、同じチャイムを聞きながら、仲間と共に3年間を過ごしてきた。

ここにいる「仲間」、それは当たり前ではない。最初ははっきり言って仲間とは言えない状態だった。一年生の時は集会のたびに叱られた。二年生になって、集会の集まり方がよくなり、他学年の先生に褒めてもらえた。自分たちの成長を褒めてもらえたことが嬉しかった。しかし、それで学年全員の意識が変わったわけではなかった。その後の集会で、近くにしゃべっている人がいた。でも、その人のことを知らなかったので「何か言われるかもしれない」と思って、注意できなかった。何もできない自分が情けなかった。「もっと自分がしっかりしていれば。」と強く思った。

私たちがお互いに注意し合える、本当の仲間になれたのは行事のおかげだ。(中略)

私たちは行事を通し、みんなのことを知り、信頼を築き、仲間になっていった。

三年前、入学式でこの体育館に集まった。友達ができなかったらと不安でいっぱいだった。勇気を出して話しかけてみたら想像以上にその子は優しく、すぐに仲良くなれた。二年生になり、その子とは離れてしまった。悲しかったけれど、あの経験があったから、新しいクラスでも自信を持って知らない子にも話しかけられるようになった。その子がいなかったら今の私はいなかったと思う。その子とは、これからずっと仲良くしていきたい。「ありがとう」では足りないくらいの感謝で溢れている。

ありがとうを伝えたい仲間は他にもいる。避難訓練で大きな音が苦手な基礎学級の仲間が耳を塞いでいた。クラスの仲間は「大丈夫？」と声をかけ、できることを考え、動いていた。その姿を見て、私も困っている仲間が

いたら積極的に動こうと思えた。基礎学級の仲間は、そんなときに必ず「ありがとう」と伝えてくれた。それは私たちにとってすごく嬉しいことだった。私たちも基礎学級の仲間たちにならってありがとうを伝えたい。クラスの空気を温かくしてくれてありがとう。助け合いの心を教えてくれてありがとう。

受験が近づき、不安で頭がいっぱいになった。そのとき隣にいてくれたのは仲間だった。いや違う、最初から仲間はいつも隣にいた。今になってそれに気づいただけなのかもしれない。仲間と休み時間に話している時は受験のつらさを忘れられた。仲間がいたからこそまでやってこれた。受験は「団体戦」。その意味がわかった気がする。

好きなものの話や先生の愚痴、恋愛の話。たわいのない話が本当に本当に楽しかった。楽しい時間ほどすぎるのは早いものだ。「もっとあの時間を大切にしていれば。」と今になって後悔する。

七十八回生は、仲間という存在がいてくれるだけで強くなれる。強くなれた。「自分一人」ではなく、「みんな」で支え合える。それが七十八回生だ。

(中略)

4月から、私たちはそれぞれの道へ進んでいく。そして、3年間一緒に過ごした仲間とも、今日でお別れだ。私たちを待っている新しい世界を想像することは、楽しみであると同時に不安が込み上げてくる。そして、卒業すれば、これまで以上に決断に責任を持たなければならない。この道を選んで良かったのかと不安になることもたくさんあるだろう。でも、そんな時は、仲間と過ごした日々や精道中学校で培った力を活かして、乗り越えてゆこうと思う。

私たちには、共に学び、共に育った仲間がいる。

私たちには、信じてくれる家族がいる。

私たちには、いつだって正しい道へ導いてくれた先生方がいる。

何年経ってもこの絆が消えることはない。だから、自分の選んだ道を自信を持って「正解」と言えるように、これからも歩んでゆこう。

78回生の仲間全員が、自分の「今」と「個性」を大切に続けられることを願って。

(78回生答辞より抜粋)



裏面へつづく

先輩方と過ごした日々は、忘れられない大切な思い出であり、みなさんは私たちにとって憧れの存在です。

いつもは冷静で穏やかな三年生が、行事に全力で取り組む姿勢はとても輝いて見えました。スローガンである「個性輝星」とおり、合唱コンクールでは、一人一人の声が重なり合った、壮大な「大地讃頌」が体育館中に響き、圧倒されました。七十八回生にしか出せない音色と、その堂々とした姿から学年の団結力が感じられました。

その団結力は体育大会でも輝いていて、先輩方が競技に取り組む姿に自然と体が熱くなるのを感じました。それは、縦割り競技の作戦会議で、私たちの意見にも耳を傾けてくださったからだと思います。私たちが練習から本番まで全員で前向きに参加できたのは、三年生の皆さんが周囲への気配りをし、普段の生活を大切にしてくられたからだとも気づきました。

部活動では、技術だけではなく仲間を思う心と最後までやり抜くことの大切さを教えてもらいました。私たちが思うようにできなくて困っている時には、話を聴いて寄り添ってくださいました。先輩方が引退されてようやく、前に立つ大変さに気づきました。また、先輩方がいてくださってこそその安心感だったのだと改めて気づかされました。私たちも、先輩方のように周りを見て行動し、後輩を包み、引っ張っていけるようになりたいです。

(中略)

先輩方とつくった「笑顔溢れる行事」、「挨拶が飛び交う精中」を引き継ぎ、私たちの個性を大事に精道中学校をよりよくしていきたいです。

そして、先輩方を見習って、私たちも、「普段の生活も行事も精一杯取り組む」、「誰からも応援される学年になる」という目標に向かって進んでいきます。

(送辞より抜粋)

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんと初めて出会った時、「なんとエネルギーのある学年なんだろう」と思ったことを昨日のこのように覚えています。そして、その印象通り、素晴らしい力を見せてもらいました。

学年委員会が「あいさつ運動」を企画しました。78回生のフロアには、清々しいあいさつが響いていました。この運動は78回生が学校の中心となる頃には、生徒会執行部の活動として広がり、「朝のあいさつ運動に参加しませんか」と全校生に呼びかけをするまでのとりくみへと広がりました。

給食時のルールが守れず注意を受ける日が続きました。すると、ある日、全クラスが基本に立ち返り、考える時間を創っていました。「自分たちのルールは自分たちのために守る」という姿勢が強くなってきたのはこの頃だったように思います。

学年レクの朝、早い時間から黙々とグラウンドに白線を引いている姿をみかけたこともあります。学年全員に楽しんでもらいたい、なかまのつながりをつくりたい。次第にその姿に協力するなかまが増えていきました。いつもの時間に登校した後輩たちはその姿から多くのことを学びました。

精道中自慢の78回生ですが、すべてがうまく進んでいた時ばかりではありません。一生懸命とりくんでいるのになぜか学年としては課題が残る、そんな風を感じる時期もあったのではないのでしょうか。

そんな時、どんな風に課題に向き合い、乗り越えたのか。その答えは78回生が選んだ言葉の中にありました。

「繋ぐ」と言う目標を覚えていますか。みなさんが修学旅行の時に決めた目標です。

この大きな行事を成功させたい。最高学年として自分も学年も大きく成長したい。

もし、困ったことやうまくいかないことがあっても抱えこむのはやめよう。

一人では小さな力でも多くの人とつながれば解決できる。

そんな風に考えた結果、この言葉に決めたのでしょうか。

78回生の学年だより、題名は「ゆいまーる」  
沖縄の言葉で「ゆい」はむすびつき、「まーる」は順番に助け合うことを意味します。

78回生が入学した時、学年に関わる先生たちが、精道中の3年間で、一番大事にしてほしい想いを込めて決めたと聞きました。

偶然かもしれませんが、けれども、大事な節目に生徒と教師が同じ意味を持つ言葉を選んだ。精道中で学んでほしいと願ったことが、同じ時間を過ごす中で、ちゃんと伝わっていると感じました。

78回生のみなさん、3年間でまわりの人の想いを受けとめ、素晴らしい学びと成長をありがとう。

精道中の積み重ねてきたことは間違いではなかったのだと、嬉しく、そして誇りに思います。

卒業すれば、なかまと会う機会は減るかもしれませんが、78回生はいつまでも「繋がり」、「ゆいまーる」でいてほしいと願っています。

そして、どうぞこれからも「一人を大事に 一秒を大事に」自分らしく生きてください。

精道中学校はいつでもここにあり、いつまでもみなさんを応援しています。

(式辞より抜粋)



【お知らせ】

○図書室の本返却期限:3月19日(木)

○落とし物の確認をしてください。

3月25日(水)まで正面玄関に並べておきます。持ち主の分からないものはリサイクルへの活用や処分とさせていただきます。